

# 「みんなで作るみんなのPTA」のために

欠かせない地域との協働

御野幼稚園・PTA会長 名前 佐藤真治

ここに  
写真を  
入れて  
ください。

御野学区は、北には陸上自衛隊・三軒屋駐屯地も含めて、半田山を中心とした丘陵が広がり、東には、旭

川が流れ、そこから、三野浄水場、西川をはじめ水路が流れ、さらに、神宮寺山古墳という前方後円墳があり、また、岡山大学、岡山理科大学、運動公園、子供の森公園があるという、まさに、歴史と伝統、自然と文教・スポーツ施設に恵まれ、子供達にも、高齢者にも暮らしやすい地域です。

来年八〇周年を迎える御野幼稚園は、現在、平成一六年度から三年保育が実施されたこともあり、年少二〇名、年中四六名、年長五一名の計一七七名が元気に通い、園庭に植えられたウマノスズクサからは、ジャコウアゲハが幼虫から孵り、時折、園内を優雅に舞っています。

今年度、御野幼稚園PTAは、「みんなで作るみんなのPTA 親子で楽しむ園生活」を目標に掲げ、執行部

学級部、広報部、事業部、交通安全部に加えて、保護者全員のPTA活動の参加を目指し、スタッフ制の「みのっこおたすけ隊」を組織し、活発に活動しています。

特に、昨夏に引き続き、今夏も、お父さん方を中心に、遊具や傘立て等のペンキの塗り替えを行いました。今後も、お父さん方のPTA活動への積極的な参加、さらには、交流のための企画を立てようと考えています。

また、今年度から、各部の活動をよりPTA会員に理解して頂くために、毎月一五日頃に、PTAだよりを発行することにいたしました。

ただ、こうしたPTA活動を行う前提として地域の方々からご協力を頂くことは欠かせません。

どこの園でも、地域の子育て支援の一環として、園庭会報や体験入園が行われていますが、瀬能園長先生のご方針、さらには、園長先生自らの積極的な地域への働きかけもあり、ここ数年来で、地域各種団体とのネットワークがより強固になりました。

具体的には、民生委員の皆様が、登園時には、園門に、あいさつ運動に立って下さり、さらには、託児ボランティアには、愛育委員の皆様にも助けて頂いております。また、卒業児の保護者によるボランティアも本当に多く、園に帰ってきて下さっています。

さらに開かれた幼稚園にするために、例えば、そうめん流しのような形で、周辺町内会との交流を園としても積極的に進めておりますし、園やPTAからの地域の方々へのご案内は、当番を決め、直接、PTAの保護者の手を通して、お届けするようにしています。また、交通指導に来て下さる交番の警察の方へも、勤労感謝の日には、子ども達から、感謝の気持ちを表す計画にしています。

また、この2学期から、保護者は、通園時に、名札を着用するようにしました。これは、ひとつには、園内の安全を確保する意味もありますが、より大きな目的は、「あいさつ運動」を地域で展開することにあります。

昨年度の岡山市国公立幼稚園PTA連合会と岡山市教育長との懇談の中から、挨拶の重要性が強く認識され、「笑顔であいさつ」というロゴマークが生まれましたが、御野幼稚園の保護者の名札の裏には、このロゴマークを配置し、通園時には、地域の方々にし

っかりと挨拶をされるようお願いしています。おそらく、こうした活動を通じて、園と家庭と地域との連携が深まり、さらにこうした保護者の姿が、子ども達の良い手本になっていくものと考えています。

こうした中で、今年度から、社会福祉協議会、婦人会の皆様のお力で、学区の敬老会が、地元中学校体育館で開催されることになり、幼稚園も積極的に参加させて頂くことになったのは、本当に嬉しいことです。また、御野学区安全安心ネットワークにも参加することになり、子ども達を守って頂くだけでなく、地域の中での責任も、我々PTAも積極的に果たしていかなくてはいけないことを痛感します。これがまさに、「協働」ということであると思えます。換言すれば、こうした地域コミュニティの核になることが、地域の公立幼稚園の役目であり、地域コミュニティに参画し、地域での責任を果たしていくことが、公立幼稚園児の保護者の責務だと思えます。

ただ、しかし、いわばPTAデビューの幼稚園の保護者には、ある意味、子ども達と一緒に、親として育てているのだという、先生や地域の方々に、教えを請うような謙虚さが、なにより必要かもしれません。

ところで、「単P」と称される。こうした各園のPTA活動の一方で、岡山県内に、二八八、岡山市内に、七〇の国公立幼稚園があり、そうした幼稚園に加えて、保育園との連携、さらには、小・中学校との連携の重要性も、岡山市国公立幼稚園PTA連合会会長の立場から、指摘させて頂きます。